

梅雨以降の大雨に対する技術対策

【野菜】

1 施設園芸

- (1) 施設周囲の作溝により、施設内への雨水侵入を防ぐ。
- (2) 施設内外にある流亡のおそれがある資材等は、明渠をふさぐ可能性があるため片づける。
- (3) 防水壁や排水ポンプを整備している場合は、事前に土のう等で補強し、点検しておく。
- (4) 重油のほ場外への流出を防ぐため、オイルタンクや暖房機はバルブを閉めて、本体が倒伏しないように十分固定する。
- (5) 暖房機を使わない期間や暖房機のメンテナンスを行った後は、暖房機の元栓が閉まっていることを確認する。

2 野菜

- (1) 排水溝を整備し、すみやかな排水を促す。
- (2) 浸冠水を受けた場合は速やかに排水を図り、葉に付着した泥が乾かないうちに水で洗い落とす。
- (3) 降雨後、薬剤散布を実施する。
- (4) 降雨が続いた場合は、肥料の流亡が多く、過湿による根傷み等で吸肥力も低下するため、生育状態に応じた液肥の施用や葉面散布を行う。
- (5) ほ場が乾き始めたら軽く中耕し、新根の発生を促す。土が流亡し根が露出している場合は、土入れを行う。土砂が流入し株元が埋まっている場合は、株元の土砂除去や、畦を中耕して通気性を高める。
- (6) 曇雨天後の急な晴天時は、強日射により茎葉のしおれや葉や果実の日やけ等を生じるため、適宜遮光等を行う。